

# 楽

## 再現 武家茶の空間

「喜多流大島能楽堂には福山空襲から再起した歴史がありますね。」

祖父久見は能楽には「城」が必要だと考えていました。東京なら各流派の舞台があり、国立能楽堂がある。福岡にも大濠公園能楽堂があるが、福山にはなく、祖父は戦後、体育館などに舞台を仮設して公演した。上田宗簡流も宗簡のお茶はその空間がないと分らないということ、江戸城内上屋敷を再現なされた。共感できますね。

「展示とサロンのスペースもあるようですが。」

「ちよつこのぞいてみよ」という感覚で、お能に触れる入り口です。この地

## 第3部 インタビュー 和の文化と現代 ②

### 喜多流能楽師 大島衣恵さん

おおしま・きぬえ 1974年福山市生まれ。東京芸術大卒業。98年、喜多流で初めて女性として社団法人能楽協会に登録。



「お能のテーマは海外でも通じたんです」と語る大島さん＝福山市の喜多流大島能楽堂（撮影・増田智彦）

題字・ヤマモトテルミさん(書家)

の昔の地名にちなみ「榎木端」と名付けています。お能には物語や登場人物という共通の前提があり、約束で成り立つシンプルさがあ

「余分なものをそぎ落としました能の美。それを大切にしながら理解してもらえ仕掛けですね。」

最近、スウェーデンで「天鼓」という曲を演じました。皇帝に鼓を取り上げられ、湖に沈められた中国の少年天鼓が、弔いの場に亡霊として現れる。それだけなんです。天鼓は恨み言を言わず、再び鼓を打てるこ

# 「型」に根ざした強さ

積極的に応える必要が今はあると思います。

から、あえて分かりやすい形に変える必要はないと思

とを喜んで純粹に舞う。そこには『ゆるし』があつて、

悲しいけど感動的だ」と評価された。お能のテーマが海外でも通じたんだと思いました。

「能には「内面と向き合う」というイメージが特に強いのですが。観客にどう訴えるかの前に、まずは自分自身と対峙しないといけない。「個」

が成り立たないと、舞台が成り立たない。お互い寄りかかる姿勢は駄目。学校の体験学習で何人かで謡う時、「はい、どうぞ」という指揮者がいないから最初

ついてくる。お能も型を繰り返して、型の中に自分が入っていく作業が必要で

今のアメリカ人は型、つまり制約のない自由に対し、言いようのない不安感を覚えていると聞きま

「上田宗簡家元がドイツでお点前をすると、一挙手一投足、食い入るように見られるそうです。」

「お茶も含め中世発祥の文化には、その点で相通じるものがあります。」

海外の方は非常に熱心で集中度が高いですね。フィ

私も茶道を習いますが、「型」があります。お点前で道具を取る動作の一つ一つが単なる決まりではなく、合理的に考え尽くされた結晶のようなものです。その型の美しさにこだわっ

ていくと、そこに内面が